

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100499		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホーム空港西(2階)		
所在地	新潟市東区空港西1丁目17番19号		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の玄関を開けると目に入ってくる「よろこんで、怒って、泣いて、笑えるそんな…自由な…家でありたい…」開設当初に入居された、ご利用者に新しいお住まいとなる施設での暮らし方についてお伺いした時に、お言葉を書にされたためいただきました。ご利用者のお気持ちがそのままグループホーム空港西の理念となりました。「孤独感や無気力感を抱かせず喜怒哀楽を自由に表に出していただける家」この、お言葉の通りに生活していただける様、職員一同努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街にあるグループホームであり、明るい外観が周辺住宅街にもなじんでいる。道路を挟んだはず向かいには同法人の小規模多機能型事業所があり、日常的に連携を取りながら運営をしている。幹線道路に近くスーパーも近いため、利便性がよい地域である。  
開設時に利用者が毛筆で書いてくださった「よろこんで、怒って、泣いても、笑える…そんな自由な人生でありたい」を理念として額装し、各ユニット、相談室、事務室等に掲げ、ケアする上で立ち返るなどして活かしている。  
開設から、利用者も年齢を重ねて介護度も上がってきており、看取りケアにも取り組んでいる。本人、家族の気持ちに寄り添いながら職員が連携して丁寧に対応している。  
また、令和4年8月の豪雨の際に、周辺道路や事業所の駐車場が冠水したことをふまえ、備蓄品の見直しや不足品リストを作成するなど災害への備えを強化している。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度始めに理念の確認を行っている。各ユニットの見える場所に理念を設置し、迷いがある時や検討する時などの支援の基となっている。	開設当初の利用者が毛筆で書にしたための気持ちをそのまま理念としている。毎年度初めに振り返りを行うほか、カンファレンス等でも理念を踏まえて検討するなど、日々実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策のため、地域の催しものなどは中止や規模を縮小したり内容を変え行われているが、感染対策のため参加はしていない。時々、ご近所の菓子店に利用者のおやつのおみやぎの購入やゴミ捨て、近隣の散歩時の挨拶や回覧板などでのコミュニケーション作りは行っている。	現在はコロナ禍にあり地域との交流の機会にはほぼない状態である。ボランティア受け入れも中止している。以前は近隣のお菓子屋まで散歩がてら買い物に行っていたが、現在はテイクアウトを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の学生の体験学習の実習の受け入れを行っていたが、コロナ感染対策のため現在は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催している。感染対策の為、活動内容を郵送で報告している。	会議メンバーは、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣の事業所の管理者で構成されている。現在はコロナ禍で書面開催となっており、事業所の運営状況、事故報告等を文書で送付している。意見は集まりにくい。メンバーである他事業所や地域包括支援センター等とは電話等で情報交換している。家族へは会議録を郵送し、職員には会議で報告して情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や申請の手続き、支援内容に質問などがあった場合、必要に応じて行っている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーであり、日常的に相談を行うなど、連携が図られている。地域の開業医を会長とした在宅医療と介護の地域ネットワークである「山の下地域包括ケアネット」の勉強会の参加を通じて、地域の関係者との情報共有と学びの機会が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修に全員が受講している。また、理念を基に身体拘束・虐待について職員会議やユニット会議で話し合いを持つ機会を設けている。	身体拘束等については内部研修で学びを深めている。事故報告書やヒヤリハット報告書なども活用して定期的にケアの質を検証し、身体拘束のないケアについて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に全員が受講している。 また、理念を基に身体拘束・虐待や不適切ケアについて職員会議やユニット会議で話し合いを持つ機会を設けている。	身体拘束、虐待防止については、自己のケアを振り返り、常に職員が話し合いができる環境づくりに努めている。法人研修にも職員全員が参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者があり、支援内容や急変時対応について必要時に話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査や相談時に施設の特徴や留意事項について説明している。契約時にトラブルにならない様、契約前に細かな説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者の様子を書面でお伝えしている。また、ご家族の面会時にも生活の様子をお伝えし、ご家族からのご要望も伺っている。	コロナ禍で家族の面会を制限する中で、些細なことでも電話がほしいという家族の希望を受け、担当職員から電話をするようにしたり、写真をたくさん用いた便りを出すなど、寄せられた意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中や職員会議、ユニット会議、個別対応など、職員から質問や意見交換ができる機会を設けている。また、年2回上期、下期に分けて個人面談を行っている。	日常的に職員が意見を言いやすい機会作りがされており、月1回のユニット会議でも積極的に意見が出されている。利用者のケアにおいても職員間で柔軟に業務の調整をするなどして対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間、有給休暇を含め事業所として働きやすさを検討し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の性格や力量を把握し研修を受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策のため近隣にあるグループホームの運営推進会議も書面となったが、お互いの施設の確認ごとや意見が互いに必要な時は電話や来所時に機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時にできるだけ、ご本人の同席をお願いし要望を伺っている。また、信頼関係を築く上でご利用者の強みと弱みを把握し、入居後に不安にならない様、寄り添う支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時にご家族から要望や不安などを伺っている。また、ご入居後、ご家族が施設入居に対しての罪悪感や不安の解消に繋がるよう施設でのご様子を小まめにお伝えしご家族の心のケアにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みの際、介護支援専門員からの意見書をお願いし、待機人数もお伝えしている。利用理由をお聞きし緊急の危険予測ができる場合は他のサービスの相談も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を支援される立場だけにせず、利用者同士、できる人ができない人を補う関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に職員、家族、関係者と各々の役割に努め、情報共有し関係作りに努めている。主に、ご家族には面会や受診等協力が得られる事をお願いしている。	コロナ禍前は、利用者の希望に沿った外出や外泊、行きつけの美容院の利用、衣替え等に家族から役割を担ってもらっていた。現在は、家族には窓越しの面会とさせてもらっているが、そのような中でも、必要な物品を持参してもらったり、手紙や電話で本人の様子を情報共有するなど、本人と家族とのつながりが途切れないようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住まれていた、ご近所の片との面会や美容院など、馴染みの関係が途切れない様努めている。	コロナ禍以前は、面会時にもゆっくり過ごしてもらるように配慮していたが、現在は窓越しの面会としている。友人の面会もあり、馴染みの関係が継続されるよう支援している。行きつけの美容院への送迎支援は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が発する言葉がけの支援では納得できない事も、利用者同士だから納得される事や、ご利用者がご利用者を認め支え合う関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった場合は必要に応じ、行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に利用者やご家族の意向の聞き取りを行い、反映できるように努めている。 また、ご本人の意向の確認が困難な場合でも、ご本人の視点に立ち検討している。	ホームに入居する前の支援の情報や、家族からの聞き取りのないようもふまえてケア会議で確認・共有している。言葉で表出することが難しい利用者は、表情や言動などからくみ取るよう努めている。 職員間での情報共有にはタブレット端末や申し送りを活用している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、利用者やご家族、ケアマネージャーから聞き取りを行うなど、情報収集を行い、暮らしの把握に努めている。	本人や家族、これまでの支援関係者などからの情報共有に努め、生活歴の把握や身体状況のアセスメントなどを行い、入居後にスムーズに生活できるようにしている。コロナ禍において、利用者の自宅への訪問が難しい場合は、家族に写真を撮ってもらい状況把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の職員がご利用者の毎日の過ごされ方を把握している。日々の生活の小さな異変の気づきに務めている。 また、気づきを自分だけの情報とせず、情報共有を行い職員間での把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の希望や意向を確認し、職員の意見も含め介護計画書を作成している。 また、利用者の状態に変化があった時はそのご様子にあった計画書に変更している。	入居時には本人・家族も担当者会議に参加してもらいアセスメントを行なっている。暫定プランを作成し、入居後1ヶ月間の生活状況を観察しながら、職員間で話し合い、確認して正式プランに切り替えている。モニタリングは毎月担当職員中心に行い、半年に1回見直しをしている。担当者会議に家族の参加が得られない時は、来訪の折や電話で説明し確認している。ユニット会議でも職員間で気づきや意見を出し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録はタブレット化となっており、入力の手軽化にはなっているが、異変や気づき等など変化があった場合はその都度入力し、職員間で情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に1度、訪問看護を依頼している。 また、受診や往診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアをお願いしていたが、現在はコロナ感染対策のため、ボランティアの訪問は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が入居以前から通われていたかかりつけ医は継続して受診されている。 また、ご利用者の状態に応じ、施設協力医に紹介を行っている。	協力医の往診が原則月1回あり、訪問看護ステーションとも連携して24時間連絡可能なが構築されている。受診前には医療機関に利用者の情報をファックスで提供している。定期の往診のほか、必要時も適時往診してもらったり看護師に来院してもらい助言を得ており、家族とも常に情報を共有しながら健康管理ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看が週に1度、利用者の健康チェックを行い、24時間体制で電話相談で協力が得られる。 急変時や異変時は協力医に相談し、状態に合わせ検査や往診など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報提供を行い、利用者、ご家族が入院中も安心して過ごされるように努めている。入院中はご家族や病院の相談員に情報交換などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについて、利用者の状態に合わせ、ご家族やかかりつけ医と相談を重ねている。ハード面など、施設での対応が難しい場合は法人内の特養への申請も働いている。 施設の協力医に24時間往診体制があり、ご家族の希望でホームでの看取りも行っている。	入居時に「重度化対応に関する指針」について説明を行い、意向を確認し同意を得ている。文書には医師や職員の役割等についても記載されている。本人の状態変化に応じて、本人・家族がともに不安を抱えないよう早めに話し合いの機会を持つようにしている。今回の訪問調査前日にも看取りを行ったところであり、看取りケアの後の話し合いも計画している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染対策で部門内で行っていたAED講習を延期している。急変時や事故発生時に対応した緊急連絡網や緊急時対処法マニュアルを作成し各ユニットの見やすい場所に設置している。	急変時の対応マニュアルの作成、連絡体制の整備をしている。また、マニュアルもわかりやすいようにフローチャート化して各ユニットに掲示している。AEDの操作方法についても、AED納入業者を講師とした研修を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と年2回の風水害訓練を実施している。また、部門内の近隣施設と部門合同委員会をつくり、訓練時は互いの応援職員として訓練に参加している。災害時の備蓄品も揃えるだけにせず、職員が混乱なく使用ができるよう普段の食事の中にも使用している。	同法人の近隣施設と部門合同委員会を作り、年2回夜間想定を含めた火災訓練を、互いに応援職員として参加し実施している。備蓄も準備し点検しており、利用者の身体状況に合わせてさらに不足品をリストアップして整備していく予定である。	水害に対応したマニュアルが未整備のため、今後作成予定である。地域の避難場所と避難経路、避難に要する時間等についても実際を確認することや、災害に備えた事業の継続等についても計画(BCP)し、さらに備えていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の名前の入った書類関係、広報誌での写真や個人情報には特に留意している。また、排泄、義歯の支援時などの言葉かけは耳元で行うなど羞恥心の配慮を行っている。	利用者の生活歴や生活習慣の情報を職員間で共有し、その人らしい暮らしが支援できるように努めている。接遇についても入職時研修や階層別研修で学んでいる。また、利用者への言葉かけについても、「ちゃん付け」はしない、職員間の会話の際は個人名を伏せるなど留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がご本人の気持ちを表現できる関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活を職員の業務都合で強制しないよう、個々の生活のリズムや過ごされ方はなるべく、ご希望に沿える支援作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時は一方的に職員が用意した衣類を着ていただくのではなく、ご利用者の好みや温度調整を確認し行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が感じる五感を大切に、ご利用者の状態に合わせた食材宅配を主体に行っている。月に数回、利用者からのリクエストや季節のメニューを手作りして提供している。コロナ感染対策のため、現在は食事の片づけをお願いしている。	食事は食材・献立とも業者に委託している。朝食は職員が手作りし、昼、夜のご飯、みそ汁は各ユニットで作り提供している。行事の際は利用者の好きなお寿司やお弁当等をテイクアウトして食事が楽しめるように支援している。おやつ類もできるだけ職員が手づくりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のご利用者の状態に合わせた食事形態で提供し、水分量や食事量も職員で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。 義歯は職員がお預かりし、清潔保持を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	経過記録に排泄回数や形態を入力し、排泄チェック表も必要な利用者には必要時に使用している。定時誘導や利用者の動きで察知したタイミング誘導で、紙パンツの使用と並行し、できるだけトイレでの排泄もできるように支援している。	トイレ内は、手すりの設置など利用者が使いやすいように整備されている。職員は定時誘導に加えて、個々の利用者の状況を考慮した声かけをしている。夜間帯もトイレを利用する方が多いため、一人ひとりのタイミングに留意し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し水分摂取や乳製品も使用し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ気持ち良く入っていただく言葉かけやタイミングなどに工夫した支援を行っている。	入浴日や時間はあらかじめ予定を決めているが、入りたがらない方も多く、言葉かけに工夫したり、身体状況や気分によって臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず利用者の生活習慣に合わせ支援を行っている。夜間帯でも眠れないご利用者には傾聴を行い、日中でも休息が必要な利用者はお部屋で休んでいただく支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服について受診後に報告書を提出し職員間での情報共有を行っている。また、受診前にも受診時に状態の報告ができる様に情報共有を行い主治医に報告している。主治医には前回の往診からのバイタル一覧表と、平均値を紙ベースで提出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入浴後のアルコールが入居前からの楽しみ利用するには入居後も同じようにさせていただく事や、行きつけの場所との関わり、個々のご利用者のお好きな食べ物などや好きな事など、施設内でも可能な事は継続できる様、努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策のため、以前より外出は困難になったが今まで住まわれていた、ご近所の片との面会や美容院など、馴染みの関係が途切れない様努めている。	コロナ禍であっても感染対策に努めながら、気分転換も兼ねて少人数で外出している。トンネルを走って海を見たり、少し足をのぼして隣の区の神社に行くなど普段と違う景色を楽しむ時間をつくっている。日常的には、事業所周辺への公園まで散歩に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご本人の趣味や欲しいものなど、利用者が必要とすることに使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後も今まで通り、利用者の大切な方との繋がりを継続できるように手紙や電話、面会でのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた設えを利用者、職員が共同で作成している。また、遮光、音、温度等は利用者に合わせて調整している。利用者の動線に注意し障害物にならないように家具の設置やものの配置には注意している。	季節を感じてもらえるように、利用者と職員とが一緒に季節感のある作品を手作りし廊下の壁に飾るなどしている。コロナ禍以降は特に換気や湿度に留意し、空気清浄器や加湿器を使用したり、人の集まる場所には手指消毒薬も設置している。ソファは複数配置して、思い思いにゆったり過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席とソファでリビングとダイニングとして使用意味を分けている。空間は一緒だが、他の利用者との視線の合わない、一人時間が過ごせる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、今まで使用されていたものや愛着のあるものをそのまま使わせていただきます。住まいは変わってもご自分の部屋の空間はなるべ変わらない様に安心して過ごせるよう提案している。	居室は、それぞれが過ごしやすいうように利用者一人ひとりの希望に合わせて整えられている。部屋のゴミ捨ては毎日行ない、シーツ交換は週1回、衣類の入れ替え等も職員と一緒にしている。換気や温度調整にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の職員は担当する利用者の生活を把握し、ユニット会議で利用者のご様子や変化、気づきや強み・弱みを検討している。検討した内容を職員間で情報共有し、利用者の強みを活かした自立活動の支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				